

## 「第1回アドバイザー・ミーティング」の開催について

株式会社北陸銀行（頭取 高木繁雄）は、平成22年8月30日（月）に「第1回アドバイザー・ミーティング」を開催いたしました。概要につきましては、以下のとおりであります。

今回のミーティングでは、平成21年度決算や中期経営計画の概要について説明し、その後、各委員の方々から忌憚のないご意見を頂戴いたしました。

### 記

1. 日 時 平成22年8月30日（月） 10:00～12:05

2. 場 所 北陸銀行本店

3. 出席者

#### <アドバイザー・ミーティング メンバー>

浅生 幸子	女性史研究家、富山市議会議員
植出 耕一	富山県副知事
小野 光太郎	北陸経済連合会常任理事、小野グループ代表
尾畑 納子	富山国際大学教授、富山県消費者協会理事
中川 了滋	弁護士（前最高裁判事）、日本電気株式会社監査役
丹羽 昇	富山大学経済学部教授
本田 百合子	公認会計士、税理士、行政書士

（五十音順、敬称略）

#### <事務局>

北陸銀行総合企画部 [司会進行]

#### <当行出席者>

高木 繁雄	取締役頭取
川合 哲	取締役副頭取
岩崎 民憲	取締役専務執行役員
石黒 達郎	取締役常務執行役員
平瀬 隆	常任監査役
山崎 昌一	総合企画部長

#### 4. アドバイザリー・ミーティング設置の趣旨・概要

北陸銀行では、平成 14 年に、外部有識者や地域の方々の声を経営に反映させるための第三者機関として、前身である経営諮問委員会を設置いたしました。

今年 4 月スタートの中期経営計画で掲げる、「地域に親しまれ・頼りにされる銀行」を確立していくうえでは、従来にも増して積極的に地域のご意見を経営に反映していくことが必要と考えており、経営諮問委員会は一旦終了とさせていただき、改めて、アドバイザリー・ミーティングを設置するものであります。

位置付け	取締役会の助言機関
目的	外部有識者や地域の方々の意見を、経営に反映させる ・ 当行の決算内容や中期経営計画の進捗状況、その他活動内容について適宜提言いただく。 ・ 地域金融機関としての地域経済支援や地域貢献等のあり方について提言いただく。
開催頻度	年 1 回（通期決算公表後、次回以降は 5 月～7 月の開催を想定）
委員	社外 7 名（学会、経済界、法曹界、行政関係者）

#### 5. 高木頭取挨拶要旨

平成 21 年度の決算を総括しますと、リーマンショック後でお取引先の収益が落ち込み、銀行も資金利益の減少を免れませんでした。一方、リテールを地道に積み上げてきた結果、与信コストが低下し、公表予想を上回る利益を計上することができたと考えております。

平成 22 年度計画につきましても、不透明な経済環境を踏まえ、コア業務粗利益は前年度横這いの計画としており、コア業務純益、当期利益については、三行システム共同化に伴う費用増加等も加味し、前年度を若干下回る計画としております。

今年度より、新しい中期経営計画をスタートさせましたが、従来同様、地域に密着し、手間隙を惜しまない地道な活動を通じ、円滑な金融機能を発揮し、皆さまのご期待にお応えしていきたく、役職員一丸となって努力してまいります。

#### 6. 当行からの説明要旨

山崎総合企画部長より、以下の内容について説明をいたしました。

- ・平成 21 年度決算概要および中期経営計画について

## 7. 委員からのご提言等について

### (1) 平成 21 年度決算について

- ・ 公的資金の完済、増配、自己資本比率改善など、経営の健全化への努力を評価したい。一方、円高や株安の進行など、マクロ的には不安要素も多いため、更なる経営効率化に取り組んで欲しい。
- ・ コア業務純益の減少は、業界の構造的問題でもあるが、本腰を入れて改善に取り組んでいくべきだ。与信費用は落ち着いてきたが、環境を踏まえれば楽観視は出来ないだろう。
- ・ 貸出金残高は、全国的にどの金融機関も減少傾向にあるものの、北陸銀行の減少率は全国平均比見劣りしており、数字をシビアに受け止めて欲しい。

< 回答 >

#### 【貸出金減少について】

- ・ 償却等による減少要因もあるものの、大きな課題と認識しており、増強に努めたい。

### (2) 中期経営計画（全般）について

- ・ 現行計画は 3 ヶ年だが、人口減少など、取り巻く環境は厳しく、地域金融機関の再編も睨み、10 ヶ年程度の長期的なビジョンも考える必要があるのではないか。また、縮小均衡を打破するには、ドラスティブな計画も必要ではないか。
- ・ 中期経営計画を実現していくためには人の教育が大事である。海外でも通用する人材育成をお願いしたい。行員教育に加え、地域の経営者の育成なども期待したい。

< 回答 >

#### 【経営者の育成について】

- ・ 地域経済への影響度を踏まえ、事業後継者の育成を図るべく、行内有資格者による「次世代経営者養成講座」を引き続き開催していきたい。

### (3) 中期経営計画（個別施策）について

- ・ 農業分野支援について、北陸銀行では農業経営アドバイザー資格取得者を増加させているが、表面的な知識に止まらず、参入の具体的ノウハウや流通面のノウハウ等にまで踏み込んでアドバイスできる専門家を育成し、踏み込んだ支援を実践して欲しい。
- ・ 個人対応については、消費者金融利用者に対する総量規制実施に伴い、当該利用者の受け皿を整備する必要があるのではないかと。
- ・ 有価証券は保守的な運用を行うこととしているが、専門家を育成し、有価証券運用益で資金利益減少をカバーするとの考えもあってよいだろう。
- ・ 新 BIS 規制を踏まえ、剰余金の積み上げ以外（増資）での自己資本の積み上げの検討は行わないのか。

<回答>

【個人ローン対応について】

既に受け皿となるカードローン商品などは用意されているが、一層のPR、周知により利用率向上に努めたい。

【増資検討について】

- ・計画では剰余金の積み上げのみで、相応のコア Tier1 を確保できる見込としている。既存株主への影響も考え、今は剰余金積み上げによる自己資本増強を基本方針としたい。

(4) 地域経済への支援について

- ・制度融資枠の活用状況からも、積極的支援体制が窺える。引き続き、円滑な資金供給の役割を担っていただきたい。
- ・日本銀行の成長基盤強化向け新貸出制度活用による積極的資金供給、金融円滑化法への対応、中小企業応援センターの活用によるサポート体制の更なる充実をお願いしたい。
- ・従来に比べ、資金売り込みに止まらず、事業計画のアドバイス機能を発揮していると実感している。踏み込んだアドバイス、経営者とのコミュニケーションは行員育成のためにも必要であり、引き続きお願いしたい。

(5) 国際業務について

- ・北陸銀行には国際業務のノウハウが蓄積されており、業務に精通した人材も揃っていると感じる。昨年のロンドン駐在員事務所開設など、強みを生かす動きがあることは喜ばしい。北陸の地公体と海外都市の提携・協定も活発化しており、地公体との連携も図りながら引き続き国際業務を展開して欲しい。

(6) 社会貢献等について

- ・幅広くインターンシップを受け入れていただき感謝する。雇用環境等が厳しい時も継続的に実施していただき、就業支援の一助を担って欲しい。
- ・環境ボランティア助成制度の設置なども今後検討して欲しい。

(7) ATMの稼働について

- ・休日不稼働のATMについて、当該地域で集客が増えるイベントや行事がある時だけでも、休日稼働を検討してはどうか。

<回答>

- ・ご指摘を踏まえ、今後弾力的な休日稼働を行えるよう検討したい。

以 上